

第74回日本詩人クラブ総会

日時 令和5（2023）年6月10日(土)

場所 板橋グリーンホール601

令和5年（2023年）6月10日(土)板橋グリーンホールにおいて、第74回（一社）日本詩人クラブの総会が開催された。当日の会員数は749名、出席者56名、委任状提出者368名で、定款26条及び27条に基づき、総会の成立が確認された。出席者は理事会関係者15名一般会員41名であった。

総会の前に、今年度の詩界功労顕彰の団体（岡山県赤磐市 永瀬清子の里づくり推進委員会）に賞状が贈呈され、赤磐市の坪井秀樹教育長と白根直子学芸員が出席された。

総会では、司会進行の星善博理事による開会の言葉、北岡淳子会長の挨拶に続き、2022年度に他界された、石川重俊、井上敬二、岩本健、岸田裕史、志田信男、高橋嗣代、西村啓子、野澤俊雄、牧岡良典、水橋斉、室井大和、杜みち子、山田由紀乃、坂本正博の各氏に黙祷を捧げた。

議事に先立ち、議長団選出が行われ、議長団には、高山利三郎氏、塩野とみ子氏が選出され、式次第の通りに議事がすすめられた。

まず理事長から令和4年度（2022年度）の概況や法人としての事業報告がなされた。概況は規約3条の精神に基づき、今年度に取り組んだ主要行事、及び理事会開催状況の報告がされた。

続いて各担当理事から今年度の担当事業についての詳細な報告がなされた。報告は次の通りである。例会（谷口ちかえ理事）、三賞関係（方喰あい子理事）、「詩界」（網谷厚子理事）、広報・「詩界通信」（天野英理事）、総務関係（遠藤ヒツジ理事）、ホームページ（高島りみこ理事）、アンソロジー・『日本現代詩選』（草薙定理事）、関西大会、大阪地域例会（神田さよ理事）、「新しい詩の声」（星善博理事）、入会（秋元炯理事）、その他として退会関係（理事長）など。

続いて、杉野紳江理事から2022年度決算報告がされ、その後、2022年度監査報告（庄司進監事・竹内美智代監事）が行われ、質疑応答の後に、いずれも承認された。

具体的な事業内容として、今年度も一般社団法人日本詩人クラブ規約第3条に謳われた精神に基づき、様々な事業が実施されたことを中心に説明された。例会は、5月、7月、10月、11月、12月に行われ、充実した内容の例会が実施されたこと。また、初めての試みである、地域例会（大阪）も2月に実施。国際交流は9月に様々な趣向を凝らして実施。他に、機関誌『詩界』及び広報・「詩界通信」の発行、『日本現代詩選』の出版。ホームページの運営。三賞の選考及び授賞式の実施。「新しい詩の声」賞の選考と授賞式の実施。詩人団体への後援、入会・退会関係の業務。また5月には関西大会を盛大に実施されたことも報告された。さらに今年度は将来構想委員会の発案である、2023年12月発刊予定の『詩界論叢』創刊号の発刊準備なども行ったことも報告され、これら事業の具体化及び実施のため、通常理事会を毎月開催し、1月14日には将来構想運営委員会を開催した。今後は、将来構想委員会は将来構想運営委員会としてさらなる会の事業の検証をしていく

ことを確認した。

続いて、2023年度の事業計画案が理事長より提案され承認された。会の運営及び各事業の推進を図るため、毎月理事会を開催、理事会に関しては今後もオンライン会議を積極的に導入。三賞の顕彰に向けての準備。将来構想委員会提案による『詩界論叢』を発刊するための編集委員会を設置。同様に理事会の下で、将来構想運営委員会を開催、例会、地域例会、地域大会、国際交流、その他活動の充実・発展を図ること。今年度も原則的に第2土曜日（7、9、10、11、12、2の各月）に例会を実施、講演会・国際交流などの事業や地域例会も充実させ、他に次年度発行の『日本現代詩選』の出版準備。例会・地域例会・地域大会・関西大会、国際交流などは、映像として発信し、広く各地域の会員に例会などの参加の機会を提供していくことも提案された。他に、『詩界』の発行。会報「詩界通信」の発行。さらに、ホームページの充実を図り会員に向けて情報を速やかに伝達し、会の活動をYouTubeで配信し、会の魅力を一般にもアピールしていくこと。他に、第7回「新しい詩の声」各賞を決定し顕彰。また詩の普及啓発のために地道に努めてきた活動団体を「詩界功労顕彰」として顕彰する。そのような数々の業務を今年度も実施していくことが提案され、了承された。

続いて、2023年度の予算案が提示され、幾つかの質問があったが、今年度の予算案も承認された。

その後で、一般社団法人日本詩人クラブの基金を拠出者に返還する件が北岡会長より協議事項として提出され、承認された。具体的な内容は、「当法人は2006年（平成18年）7月3日に中間法人として成立したが、その後、法律改正により一般社団法人に自動移行しており、現在は一般社団法人となった。中間法人法の規定により法人設立要件であった基金は一般社団法人法では基金制度は強制から任意へと変更されている。基金は法律上返還を要する旨の記載がある。一方で当クラブの現在の財務状況は良好であり、負債の性質を持つ基金を拠出者に返還しても財務上の問題はない。よって基金300万円全額を拠出者に返還する事としたく、定款により会員総会の採決を求めるものである。なお、拠出者は返還を受けることに同意している。返還の具体的な方法については定款に定めるとおり理事会に一任されたい」という主旨である。しかし、今後、この基金は一般財形に組み込むのではなく、三賞の積立金として確保していくことが中村不二夫顧問により提案され、承認された。

質疑応答の後で議長団が解任され、議長を務めたお二人が挨拶された。

続いて 名誉会員の推挙・承認が行われ、一般社団法人日本詩人クラブ規約第3章第5条に基づき、次の3名が名誉会員に推薦され、承認された。そして出席された武子和幸氏が挨拶をされた。名誉会員に武子和幸氏、たかとう匡子氏、なんば・みちこ氏が推薦された。

次に会員の功労顕彰が報告され、今年度は柳生じゅん子氏1名が顕彰された。

最後に秋元炯理事より閉会の言葉があり、今年度の総会は無事に終了した。

（文責・前理事長 吉田義昭）

* 「詩界通信」104号から抜粋。詳細は「詩界通信」104号に掲載しました。



名誉会員 武子和幸氏



感謝状受賞者 鈴切幸子氏



北岡会長挨拶



議長団 塩野とみ子氏 高山利三郎氏



事業報告 吉田理事長



立原一洋氏の歌と演奏



新役員紹介



旧役員退任挨拶



会場風景



懇親会